

アジアのくらしプロジェクト ラオスプログラム 2025 報告書

01 アウトライン

●概要・背景

2025年11月に愛子さまによる初めての外国公式訪問の地となったラオス。

近年、開発が進み急激に変化しているラオスの生活に焦点をあて、その伝統や習慣を活かしつつ、未来に向けた暮らしの在り方についてデザイン提案を行うプロジェクトで、2017年度にスタートし今年度は7回目の実施となった。

建築・環境デザイン学科の学部3年生・大学院修士課程の学生を対象に、ラオス国立大学建築学部と共同でフィールドサーベイとワークショップを行った。

ラオス国立大学側は Mii Sithixay INSISIENGMAY 教授（ミー先生）が担当して下さり、多摩美術大学7名（学部6名・修士1名）、ラオス国立大学10名（Architecture / Product Design / Interior Design の各学科）、総勢17名の学生が参加。

●活動期間

2026年2月26日（木） ～ 2026年3月7日（土）

●活動場所

ラオス人民民主共和国 首都ビエンチャンと周辺地域・古都ルアンパバーン

●参加学生

建築・環境デザイン学科	3年生	6名	
大学院建築・環境デザイン研究領域修士課程	1年生	1名	計7名

●教員

岸本章教授 橋本潤教授

アジアの暮らしプロジェクト ラオスプログラム 2025

02 スケジュール

年月日	2026/2/23	2026/2/24	2026/2/25	2026/2/26	2026/2/27	2026/2/28	2026/3/1
曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝食					Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel	ホストファミリー宅
AM				8:00 羽田空港集合 9:50 LCRヴィエンチャン駅発 C82 高速列車 10:35 羽田空港発 タイ国際航空 TG683	■ルアンパバーン市内リサーチ 9:50 LCRヴィエンチャン駅発 C82 高速列車 11:51 LCRルアンパバーン駅着 ・ワット・シェントーン	■ヴィエンチャン市内リサーチ ・コープ・ビジターセンター ・寺院建設現場 ・メコン川 ・ショップ・飲食店 ・タート・ルアン	■郊外農村リサーチ ハースワン(Hatsuan)村 ・農地(ウシ牧場) ・民家 ・市場
昼食					ルアンパバーン市内 カオソイ店	ヴィエンチャン市内 プンチャ店	PARKSON フードコート
PM				15:40 バンコク着 18:30 バンコク発 タイ国際航空 TG574 19:45 ヴィエンチャン発 21:00 集合(ホテル)	■ルアンパバーン市内リサーチ ・民家博物館 ・自由時間 19:22 LCRルアンパバーン駅発 C81 高速列車 21:24 LCRヴィエンチャン駅着	■郊外農村リサーチ ラオス国立大学にて合流後、 ハースワン(Hatsuan)村 ・スーパーマーケット ・製塩施設 ・民家	■ヴィエンチャン市内リサーチ 20:00 空港にて青木さん合流
夕食				ビエンチャン市内レストラン	各自(ビエンチャン市内レストラン)	ホストファミリー宅	各自
宿泊				Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel	ホームステイ	Smile Inn Hotel
通訳				通訳なし	ポーカイ氏	ポーカイ氏	ポーカイ氏
移動				小型バス(空港のみ)	小型バス(駅のみ)	小型バス	小型バス
備考				※現地集合		※ラオス国立大学生と合流	
年月日	2026/3/2	2026/3/3	2026/3/4	2026/3/5	2026/3/6	2026/3/7	2026/3/8
曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝食	Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel		
AM	■ヴィエンチャン市内リサーチ ・民家 ・Pier Museum ・寺院	■ワークショップ ラオス国立大学建築学部 ・コンセプト検討	■ワークショップ ラオス国立大学建築学部 ・デザイン検討	■ワークショップ ラオス国立大学建築学部 ・プレゼン検討	■フリー	7:40 成田空港着	
昼食	タラートサオ フードコート	大学内	大学内	大学内	各自		
PM	■ワークショップ ラオス国立大学建築学部 ・テーマ検討 ・グループ分け	■ワークショップ ラオス国立大学建築学部 ・コンセプト検討	■ワークショップ ラオス国立大学建築学部 ・デザイン検討	■プレゼンテーション ラオス国立大学建築学部	■フリー 17:00 解散(ホテル) 17:30 ホテル出発 小型バスで空港へ 20:30 ヴィエンチャン発 タイ国際航空 TG575 21:40 バンコク着 23:55 バンコク発 タイ国際航空 TG642		
夕食	懇親会(ラオス式焼肉)	各自	各自	各自			
宿泊	Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel	Smile Inn Hotel			
通訳	ポーカイ氏	ポーカイ氏	ポーカイ氏	ポーカイ氏			
移動	小型バス	小型バス	小型バス	小型バス	小型バス(空港のみ)		
備考					※現地解散		

03 フィールド・サーベイ 首都 ビエンチャン

ラオスの首都ビエンチャンはこのプロジェクトの拠点となる都市で、ラオス国立大学建築学部も立地している。



タート・ルアン：ラオスを代表する仏塔である。



早朝に行われる托鉢を見学：地域の住民が食料などを喜捨するが、近年は参加者が減っている様子。



コープビジターセンター：ベトナム戦争時のラオスの様子などを紹介する施設。



戸建住宅



戸建住宅：もともとクリニックとしても利用されていた。



総菜を売る屋台が並ぶ地域

04 フィールド・サーベイ 古都ルアン・パバーン

世界遺産の街であるルアンパバーンを日帰りで訪れた。



ビエンチャン駅：2021年に国内鉄道が始めて開業した。一帯一路に基づいて計画された中国式の鉄道。



列車内部：ビエンチャンとルアンパバーンを2時間程度で結ぶ。鉄道の開通で陸路での日帰りが可能になった。



メコン川の様子



ファンチャン歴史博物館：王族の伝統的な高床式住居を保存している。



ワット・シエントーン：16世紀に建立されたルアンパバーンを代表する寺院。



ワット・シエントーン内部

05 フィールド・サーベイ 首都近郊の農村 ハースワン村

ビエンチャン近郊のハースワン村にて両校の学生がホームステイを行った。1泊だけではあるが夕食の調理を手伝うなど、実際の生活の一端を体験するホームステイの実施はプロジェクトの肝であり、ラオスの暮らしを知る上で有効であると考えている。



渡し舟：村へは車で移動するが、最後に車ごと手作り感溢れる船で河川を渡る。



夕食の手伝いで絞めた鶏の羽を取り除く。



夕食はビア・ラオというブランドのビールと共に軒下で。



伝統的な高床式住居：コンクリートの柱やトタン屋根など現代的な建材も使用されている。



住宅の実測



ラオス国立大学のメンバー・毎年お世話になっているホストファミリーと共に。

06 ワークショップ ラオス国立大学建築学部

ラオス国立大学建築学部にて実施。フィールドサーベイを基にテーマを定め、3グループの混合チームに分かれてデザインを検討した。実質3日間でテーマ設定からデザイン提案までを検討し4日目にプレゼンテーションを行う。

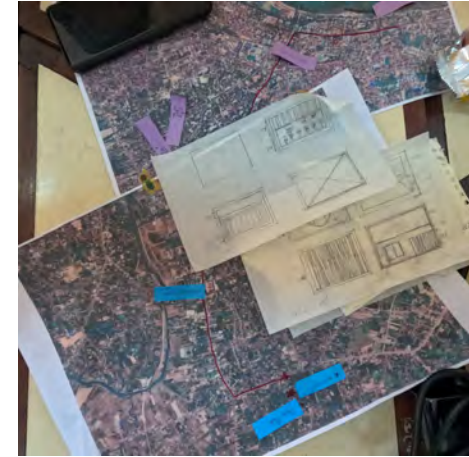
ワークショップ最終日に両校の教員（多摩美2名・ラオス国立大学6名程度）が参加して、プレゼンテーションと講評が行われた。



リサーチを基に各自興味のあるテーマを書き出し検討。



日本語・ラオス語・英語・中国語でコミュニケーション。



分析・検討中の資料



プレゼンテーションは日本語とラオス語で行われた。



関係者の記念撮影。ラオス国立大学には制服があり建築学部の学生はオレンジのネクタイ。日本へ留学していた教員も多い。

08 総括

プロジェクトを通じて学生に新しい思考や視点が生まれることを期待している。

両校の学生は農村部のフィールドサーベイで始めて対面した。最初は緊張しながらも、スマートフォンの翻訳機能も駆使しつつサーベイや食事を共にすることで、次第にコミュニケーションが活発になっていった。

ワークショップでは、日本とラオスの文化の違いからなかなかお互いの思考が伝わらないグループもあったが、提案が具体化していくとディスカッションも活発になっていく。

異文化に直接触れて様々な学びを得たであろう事は、学生の言動や報告書からも強く感じる。ラオスの学生にとっても日本の学生の視点は新鮮で、自国の文化を複眼的に捉える機会になった様子である。例年、数名のラオス国立大学生が空港まで見送りに来てくれる事が印象的だ。

ラオス国立大学側の担当者である Mii Sithixay INSISIENGMA 教授と Soukanh CHITHPANYA 建築学部長とは、両校の提携についても継続して協議を進めて行くことを確認した。



Mii Sithixay INSISIENGMA 教授



Soukanh CHITHPANYA 建築学部長